

外国につながる子どもの日本語教育に関する研究 - 日本語教育技能育成独自プログラムの開発の模索 -

| | |
|-----|---|
| 著者 | 内橋 一恵 |
| 雑誌名 | 神戸常盤大学紀要. 別冊 |
| 号 | 12 |
| ページ | 40-40 |
| 発行年 | 2018-10-31 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1492/00001023/ |

5-B-9

外国につながる子どもの日本語教育に関する研究 ー日本語教育技能育成独自プログラムの開発の模索ー

内橋一恵¹⁾

長田区内は神戸市内でも中央区に次いで外国人口が多く、およそ 7.5%(H29 年)を占める。半数以上が韓国朝鮮籍かベトナム籍の住民である。これに加え、統計には現れない帰化外国人の数も相当数存在すると推定される。すでに日本語能力に大きな問題はないと考えられる韓国朝鮮籍等オールドカマーの住民とは違い、ベトナム籍や近年新たに来日した中国籍などニューカマーと呼ばれる人々の日本語の習得レベルは低いことが多く、また彼らの子弟は日本で生育していたとしてもその多くが特に学習言語の習得に困難を抱えている。

しかし現在の学校教育現場での日本語教育のフォローは非常に手薄である。従来の日本語技能育成のカリキュラムは大人の学習者を対象としており、子どもへの教授方法を習得する機会がないことや、公教育における日本語教育はボランティア的な立場で行われることが多いために、深刻な人材不足に陥っている。政府の外国人材の積極的な受け入れ方針に従い、今後日本語教育についても何らかの施策が打ち出される動きがあるが、社会的弱者である子どもの教育についての視点がどの程度含まれるか不明である。

本研究ではこうした問題を日本語教育ボランティアへの聞き取りやフィールドワーク、アンケート調査等から概観し、それに対応するための子どもへの日本語教育技能育成の新しいあり方を模索する。

1) 事務局